



## 期待される画期的な

# 三つの機能

北海道大学農学部長

教授 七戸 長生

現状を正確かつ冷静にとらえて、今後どういう方向に向って、何をすべきかを的確に指示するという課題は、私達が携っているあらゆる活動にとって、片時たりともゆるがせにできぬ最大の責務である。このことをぬきにしては、どんなに一生懸命になって汗水流して努力しても、無意味にうごめいているに過ぎないことになろう。

とりわけ近年の農業・農村をめぐる情勢は、非常にめまぐるしく激動しているため、問題は過去の個人的な体験や前例に頼って処理しうる範囲を遙かに超えている。正直なところ、何を、どうしたらよいか全く見当がつかなくなつて、途方に暮れているというのが、近年の私達の心境ではなからうか。

だが、このような状況のまま、いつまで

も成り行きまかせ、行き当たりばったり、の対応を取り続けるわけにはいかない。特に、私達が携っている農業・農村関係のもろもろの仕事は、どれひとつをとってみても、二年、五年、という年数の積み重ねを計画的に組み込んだ息の長い仕事である。必然的に、何とどのような手順で進めるべきか、次にどのような段階の問題が出てくるか、といった将来予測を含めた課題を明快に解決することが前提となる。

しかし、まだ誰もが経験したことのない未来のことを正確に予測するということは、極めて困難である。一つには、予測するのに必要なデータや情報がたりないし、もう一つには、こうなつてほしいとか、こうしたい、といった生々しい個人的な願望がまつわりつい

て、冷静な判断を妨げる。さらにさまざまな観点からの多様な考え方を取捨選択し、総合化していくという緻密な思考を組織的に進めることも、個々の能力を遙かに超える課題である。

反面で、現代社会は非常に専門分化した形で、数多くのエキスパートを生み出している。そして、それらの専門家は、互いに分野を異にする者が仕事を分担しあい、組織的に活動する時に、最も高い能力を発揮している。いわゆるシンク・タンクの形をとる頭脳集団に私達が大きな期待を抱くのも、このような多様な専門家集団の生産力の高さを確信しているからに外ならない。

この度、発足した北海道地域農業研究所は、北海道の農村・農民がかねてから待望していた本格的なシンク・タンクの機能開始を意味する。私達が輝かしい未来の開拓のための第一歩を踏み出そうとするとき、どうしても必要としている次の三つの課題、第一は冷静かつ正確な現状把握、第二は何をどのようにして実行していくべきかを明快に示す、豊富なデータや情報の集積、そして第三はそれぞれの地域に住んで生産し生活している人びとの立場に立って何が問題であり、それをどう解決すべきかを、組織的かつ総合的に考える計画機能、に対して画期的な威力を発揮してくれることを切望して、激励の言葉としたい。